

# 医業の現場から 経営

file016 中国・四国地区

## 充実の透析医療環境で 地域住民の信頼を集める

### 功を奏したグループ診療

山口県の南部中央に位置する防府市は人口約11万5千人。初代院長が1959(昭和34)年に現在地から500mほど離れた場所で小児科・内科を標榜して光山医院を開業した。2002年より済生会山口総合病院内科に16年間勤務していた哲生氏が院長に就任、内科(哲生氏)・整形外科(弟の博巳氏)の2科でスタート。翌2003年には医療法人光恵会に組織変更、2004年には入院施設を開設、2007年に2人の医師を招いて小児科と耳鼻咽喉科を併設した。

実は同院は内科・整形外科と、小児科・耳鼻咽喉科が緩やかなグループ診療の形態を取っているのが大きな特徴だ。受付と事務は、小児科・耳鼻咽喉科と内科・整形外科とで分かれている。ただし、一部例外を除いて事務も看護師も各診療科を行き来できるようにになっていて、スタッフは週ごとに交代、ローテーションで勤務している。

4人の医師が共通のスタッフをかかえていることになるが、実際には耳鼻咽喉科は夜7時になっても診療が終わらず、内科は6時に終わっているということもある。勤務時間や医業収入が診療科によって異なるわけだが、「不思議なことに不満は出ていません。2人とも当院に骨を埋めるつもりでおられるからでは」と光山院長は言う。

以来9年が経過し、外来患者は1日450人を数える。「当院のメインは透析でしたが、小児科と耳鼻咽喉科の組み合わせは確実に外来患者を増やせるとの目算がありました。寒い中、朝8時から10人以上が待っておられます」。光山院長の狙いは的中したようだ。

### スタッフ定着の秘訣は 手厚い福利厚生

光山院長は、来院患者が増えた最大の要因はスタッフが定着していることにあると話す。たとえば看護師は、光山院長が16年間の済生会在籍中に内科外来や透析部門で「これは」と思い声をかけたメンバーが揃う。応じてくれたのは25人。「ぜひ行きたい」と入職してきたこともあり、その多くが現在も勤務している。特に総師長、外来師長、透析師長など看護の中心メンバーは全員がスタート時点から代わっていない。

「下の人が大勢辞めた時期もありましたが、コアとなる人が辞めなければ大丈夫なのです。済生会から来てくれた人たちは一緒に苦勞してくれているから、状況もよく理解しています。ただ、10年先を考えると、若い人材を育てなければなりません。そこで、30代の2人を病棟と透析の主任に抜擢しました。医者にできることには限界があり、よいスタッフがいないと何もできません。人材確保と育成は何よりも大事です」と光山院長は話す。

### 医療法人光恵会 概要



光山医院／透析患者専用住宅 光の郷防府

■所在地  
山口県防府市今市町 21-15

■診療科  
内科、耳鼻咽喉科、小児科、整形外科・リハビリテーション科、人工透析

光山医院山口／透析患者専用住宅 光の郷山口

■所在地  
山口県山口市矢原町 7-185

■診療科  
内科、人工透析



リハビリテーション室(光山医院山口)



人工透析室(光山医院山口)



隣接して透析患者専用住宅「光の郷」がある。写真は施設内に掲示されたスタッフ紹介ボード

若い職員には子どもが生まれても働きやすいように早くから育児制度を導入したほか、保育料を補助している。また、健康維持を目的として希望者にスポーツジムの無料券を配布したり、職場のコミュニケーションを図るため歓迎会、納涼会、忘年会を毎年必ず実施しており、参加率は9割と高い。さらに、サービス残業はさせない方針を当初から貫いているのも職員の定着率を高めるのに一役買っている。

### 透 析医療で地域医療に貢献

防府市には、山口県最大の3次救急を担う県立総合医療センターがある。透析施設は同院スタート以前に2施設があった。透析患者数は人口10万対250人といわれる。計算上、防府市の透析医療は充足していたことになり、そこに3施設目として開業したわけで、当初は患者数を確保するため、県立総合医療センターからの紹介患者は100%受け入れた。するとまもなく患者数は、光山院長が済生会勤務当時のなじみの約50人を含めて200人近くに。月金は3クール、火木土も2クールを実施して切り抜ける状況になっていた。

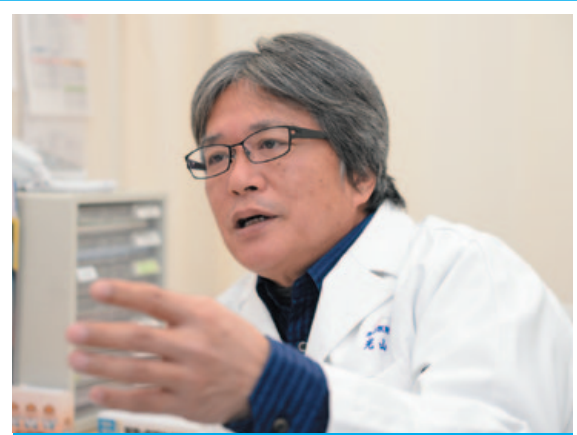
予想を超えて患者が増えた

ため透析施設の増築も行ったが、それ以上に、高齢化する透析患者や家族が、将来も遠方から週3回通い続けられるかという心配があった。そこで光山院長が思い描いたのが、透析施設に無理なく通える隣接地に生活施設を設けることだった。そして

2010年1月に、住宅型有料老人ホーム「光の郷」(28室)を光山医院の隣接地に開設、2014年9月には山口市に透析施設と居住施設(有料老人ホーム・10室とサービス付高齢者向け住宅・26戸)を併設した「光の郷山口」を相次いで立ち上げた。

「30年来の夢の実現でした。ただ、光の郷山口ができて少し余裕ができていたのに、予想に反して防府の患者が再び200人になってしまいました。また他の場所にクリニックをつくりたいと考えています」。

光山医院の基本理念は「透析を通して地域医療に貢献すること。透析以外に手を広げるつもりはないという。あくまでも透析患者に限定した施設だけを作りたいとの考えだ。透析患者が総合病院にかかるメリットは、合併症が起きた場合に安心できるという理由だけで、顔見知りのクリニックで透析する方が患者の状態を熟知しているし、精神的にも安心できることから、大勢の患者が来院する。2週間



理事長・院長 光山 哲生氏

1986年山口大学医学部大学院卒業、同年より山口県済生会山口総合病院内科勤務、2002年光山医院承継、2003年医療法人光恵会設立、理事長に就任。医学博士、日本内科学会認定医、日本腎臓病学会専門医、日本透析学会専門医。

に一度は必ず念入りに診察し、日常の透析にも医師がしっかり立ち会うのも信頼を集める要因となっている。

最後に医業経営コンサルタントに何を期待するかを伺ったところ、「医者は毎日の診療に追われているので、頭の中で将来像を描いても実現するのは簡単ではありません。医者はコンサルタントの意見を聞きながら、構想を一步步現実にしていくべきだと思います。だから、遠い将来というよりも、現実味のある情報の提供をお願いできればありがたい」と、我々に求められる役割を明解に示していただいた。



「透析を通して地域医療に貢献する」が基本理念。施設・サービス環境は透析患者のために特化している